

- 問1 享保の改革で行われた「上げ米」の制は、大名に重い負担を課す一方で、大名側にも一定の利点がある仕組みとなっていました。その仕組みの背景として正しい説明はどれですか。 (2015年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 米を納める代わりに、武士の身分を捨てて商売を始めることを許可し、大名家が抱える家臣の人数を削減させた。 | 2. 米を納める代わりに、江戸城の修築や河川の改修などの「手伝普請（公共事業）」の義務をすべて免除した。 | 3. 米を納める代わりに、大名が最も多額の費用を費やしていた参勤交代の江戸滞在期間を半分に減らし、支出を抑えさせた。 | 4. 米を納める代わりに、大名が自身の領地で独自の通貨を発行することを許可し、領国内の経済を活性化させた。 |
|--|--|--|---|
- 問2 江戸時代の農村における生活の変化について述べた文として、当時の社会状況を正しく説明しているものはどれですか。なお、当時の資料には、農民が菜種を売って肥料代を捻出し、日常的の買い物を貨幣で行うようになった状況が記されているものとします。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 農民は全ての農具や肥料を自給することを義務付けられ、市場での売買は禁止されていた。 | 2. 新田開発が停滞したため、農民は農作業を放棄して都市へ流入し、農村の商業化は衰退した。 | 3. 幕府が米以外の栽培を厳しく制限したため、農村では貨幣が一切使われず物々交換が中心となった。 | 4. 貨幣経済が農村に浸透し、自給自足の生活から商品作物を売って必要な品を買う生活へと変化した。 |
|--|---|--|--|
- 問3 1600年に関ヶ原の戦いで勝利を収め、その3年後の1603年に朝廷から征夷大将軍に任命されたことで、江戸に幕府を開き全国支配の体制を確立した人物は誰ですか。 (2017年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|---------|---------|
| 1. 源頼朝 | 2. 織田信長 | 3. 徳川家康 | 4. 豊臣秀吉 |
|--------|---------|---------|---------|
- 問4 江戸時代、東北地方の酒田などの港から日本海を通り、敦賀で荷卸しして馬や琵琶湖の船に積み替えて大阪へ運ぶ経路に代わり、河村瑞賢によって整備された「西まわり航路」が広く利用されるようになった最大の理由として正しいものはどれですか。 (2017年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 太平洋側を北上して江戸へ向かう「東まわり航路」に比べ、常に追い風を利用できるため航海日数が大幅に短縮されたから。 | 2. 鎖国政策の影響により日本海側の海外貿易が制限されたため、国内向けの物資輸送に特化した大型船が導入されたから。 | 3. 幕府が参勤交代の経路として指定したことで、各地の港に宿場町が整備され、陸路よりも安全に移動できるようになったから。 | 4. 下関を経由して瀬戸内海を通ることで、積み替えの手間や費用を省き、大量の物資を安く運べるようになったから。 |
|---|---|--|---|
- 問5 徳川家康が朱印船貿易を奨励した目的や、その結果として東南アジア各地に見られた状況についての説明として、最も適切なものはどれですか。 (2024年 鳥取県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|--|
| 1. 幕府が貿易の利益を確保し外交権を握ることを目的とし、アユタヤなどに日本町が形成された。 | 2. 倭寇の活動を鎮めることを目的とし、中国の明との間で合札を用いた正式な国交を回復した。 | 3. 鎖国を完成させることを目的とし、渡航先をオランダの拠点があるバタビアに限定した。 | 4. キリスト教の布教を全国に広めることを目的とし、長崎や平戸が最大の貿易拠点となった。 |
|--|---|---|--|
- 問6 江戸時代中期、杉田玄白や前野良沢らがオランダ語の医学書『ターヘル・アナトミア』を翻訳し、1774年に出版した書物の名称として正しいものを選びなさい。 (2015年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|----------|---------|---------|
| 1. 蘭学事始 | 2. 日本永代蔵 | 3. 解体新書 | 4. 古事記伝 |
|---------|----------|---------|---------|
- 問7 江戸時代の貨幣政策に関する次の説明文の空欄にあてはまる内容の組み合わせとして、正しいものはどれですか。「1714年に発行された正徳小判は、1600年当時の慶長小判と同じ84.3%という高い金の含有率を持っていた。このように（X）ことは、（Y）」 (2019年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. X：貨幣の質を下げる Y：金銀の海外流出を食い止め、国内の備蓄を増やす | 2. X：貨幣の質を高める Y：貨幣の価値を安定させ、物価の上昇を抑える | 3. X：貨幣の質を下げる Y：貨幣の流通量を増やし、景気を刺激する | 4. X：貨幣の質を高める Y：幕府が改鑄による差益を得て、財政を潤す |
|--|--------------------------------------|------------------------------------|-------------------------------------|
- 問8 かつての豊後国（現在の大分県）のように、複数の藩の領地が複雑に入り混じっている地域において、江戸幕府が特定の場所に「直轄地」を設けて代官を派遣した目的や仕組みとして、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 幕府が直接支配を行うことで、地域の重要拠点を確保し、各大名への監視や統制を強めるため | 2. それぞれの藩が自由に海外貿易を行えるよう、幕府が特区として認めた場所にするため | 3. 守護や地頭を各地域に配置し、鎌倉時代以来の伝統的な地方統治を復活させるため | 4. 土地の管理をすべて有力な農民に委ね、幕府が一切の介入をしない自治組織を作るため |
|---|--|--|--|
- 問9 江戸時代中期から後期にかけての政治や社会の動きについて述べた以下の出来事のうち、時系列で並べた際に最も新しい時期に起こった事象を選択してください。 (2018年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 老中の松平定信が、朱子学以外の学問を禁じるなど武士の規律を正す改革を行った。 | 2. 対馬藩の宗氏を通じて朝鮮との国交を回復し、将軍の代わり目ごとに通信使が来日した。 | 3. 幕府の役人であった大塩平八郎が、飢饉に苦しむ人々を救うために大坂で拳兵した。 | 4. 老中の田沼意次が、商人の組織である株仲間への公認など積極的な経済政策を進めた。 |
|---|---|---|--|
- 問10 江戸時代の農民支配に関する記述として、大規模なききんの影響と幕府の対応の組み合わせが正しいものはどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. ききんによる生活苦から百姓一揆が増加したため、幕府は農民の都市への流出を防ぐために都市への出かせぎ制限を行った。 | 2. ききんによる農村の荒廃を防ぐため、幕府は日本人の出入国を全面的に禁止し、鎖国体制をさらに強化した。 | 3. ききんによる食料不足を解消するため、幕府は開港を行い、外国から安価な穀物を輸入することを奨励した。 | 4. ききんの影響で物価が上昇したため、幕府は農民に対して商人の独占組織である株仲間へ加入することを推奨した。 |
|---|--|--|---|
- 問11 江戸時代の風景画である『富嶽三十六景』について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 「ベロ藍」と呼ばれる輸入された顔料を使い、海や空を鮮やかに表現した。 | 2. 幕府の御用絵師が、大名や公家のために城の障壁画として制作した。 | 3. 墨の濃淡のみを用いる水墨画の手法で、自然の厳しさを宗教的に描いた。 | 4. 歌舞伎役者の表情を誇張して描き、芝居小屋の宣伝のために配布された。 |
|---------------------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
- 問12 19世紀に入り、ロシアなどの欧米列強が日本近海に現れるようになると、江戸幕府は北方警備を強化するために蝦夷地を直轄領としました。この時期、樺太（サハリン）に派遣され、そこが島であることを確認した人物は誰ですか。 (2024年 大分県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 間宮林蔵 | 2. 伊能忠敬 | 3. 近藤重蔵 | 4. 最上徳内 |
|---------|---------|---------|---------|

答え合わせ・解説

問1	答え 3 米を納める代わりに、大名が最も多額の費用を費やしていた参勤交代の江戸滞在期間を半分に減らし、支出を抑えさせた。	幕府は大名から一方的に米を徴収するのではなく、大名にとって最大の経済的負担であった参勤交代の義務を緩和（江戸滞在期間の半減）するという「参勤交代の負担軽減」を見返りとして提示しました。これにより、大名は江戸での滞在経費を節約することが可能になりました。幕府は米を確保し、大名は江戸での出費を抑えるという、財政難の中での一時的な妥協案としての性格を持っていました。
問2	答え 4 貨幣経済が農村に浸透し、自給自足の生活から商品作物を売って必要な品を買う生活へと変化した。	江戸時代、農村では菜種や綿などの商品作物を栽培し、それらを売って得た貨幣（銭）で肥料や日用品を購入する「農村の商業化」が進みました。背景には、都市の人口増加に伴う油（菜種が原料）や衣料品の需要拡大があります。これにより、農村はそれまでの自給自足的な形態から、貨幣経済の仕組みに組み込まれた形態へと大きく変貌を遂げました。
問3	答え 3 徳川家康	豊臣秀吉の死後、豊臣氏の家臣たちの間で対立が深まりました。石田三成らを中心とする西軍を関ヶ原の戦いで破った徳川家康は、1603年に武士の最高位である征夷大将軍となり、江戸幕府を開きました。これにより、中世から近世へと大きく時代が動くことになりました。
問4	答え 4 下関を経由して瀬戸内海を通ることで、積み替えの手間や費用を省き、大量の物資を安く運べるようになったから。	従来のルートでは、敦賀から琵琶湖を経て大阪へ運ぶ際に、船から陸路（馬）、さらに小型船へと何度も荷物を積み替える必要があり、多大な労力とコストがかかっていました。河村瑞賢が整備した西まわり航路は、酒田から日本海を下り、下関を経由して瀬戸内海を通ることで、大阪まで一度も荷を降ろさずに船だけで直行できるようになり、輸送効率が飛躍的に向上しました。
問5	答え 1 幕府が貿易の利益を確保し外交権を握ることを目的とし、アユタヤなどに日本町が形成された。	徳川家康は、海外の富を取り込み幕府の財政基盤を固めるために朱印船貿易を推進しました。この貿易により、商人だけでなく多くの日本人が東南アジアへ渡り、タイのアユタヤをはじめとする各地に「日本町」と呼ばれる居住地がつくられるほど活発な交流が行われました。
問6	答え 3 解体新書	杉田玄白や前野良沢は、人体解剖図が掲載された西洋の医学書を苦勞して翻訳し、この書物を完成させました。これをきっかけに、オランダ語を通じて西洋の学問を学ぶ「蘭学」が日本で急速に発展することとなりました。
問7	答え 2 X：貨幣の質を高める Y：貨幣の価値を安定させ、物価の上昇を抑える	新井白石による貨幣改革は、それ以前の「貨幣の質を落として幕府の利益を出す」方針から転換したものでした。1600年当時の水準まで金の割合を回復させた「質の良い小判」を流通させることで、上がり続けていた物価を抑制しようとしてしました。しかし、流通する貨幣の総量が減少したため、のちに経済の停滞を招く側面もありました。
問8	答え 1 幕府が直接支配を行うことで、地域の重要拠点を確保し、各大名への監視や統制を強めるため	江戸幕府は、地方の大名がひしめき合う地域や交通・軍事の要所に直轄地を置きました。これにより、幕府から派遣された代官が直接支配を行い、周辺の藩に対する政治的な影響力や監視を維持する狙いがありました。藩が統治する「藩領」とは異なり、幕府の強力な経済基盤および統治能力を示す象徴的な役割も果たしていました。
問9	答え 3 幕府の役人であった大塩平八郎が、飢饉に苦しむ人々を救うために大坂で挙兵した。	江戸時代の外交と政治の推移をたどると、まず江戸初期に朝鮮との国交回復が行われました。18世紀後半には田沼意次が重商主義政策を推進し、その後の18世紀末に松平定信が寛政の改革によって農村の復興や思想統制を図りました。1837年に発生した大塩平八郎の乱は、さらに後の天保の飢饉の最中に起こった出来事であり、幕府の元役人が反旗を翻したことで幕政に大きな動揺を与えました。
問10	答え 1 ききんによる生活苦から百姓一揆が増加したため、幕府は農民の都市への流出を防ぐために都市への出かせぎ制限を行った。	天明のききんや天保のききんといった大規模なききんが発生すると、農村では餓死者が続出し、年貢の減免などを求める百姓一揆が激化しました。多くの農民が耕作を放棄して江戸などの都市へ流れ込んだため、幕府は農村の荒廃を食い止めるために「旧里帰農令」や「人返しの方」を出し、農民を村に留まらせようとしてしました。
問11	答え 1 「ベロ藍」と呼ばれる輸入された顔料を使い、海や空を鮮やかに表現した。	葛飾北斎の『富嶽三十六景』は、当時普及し始めた安価な化学顔料である「ベロ藍」を効果的に使用している点が特徴です。江戸時代後半には交通網が整備され、庶民の間で旅や名所への関心が高まったため、このような風景画が木版画として大量生産され、広く流通しました。水墨画は室町時代の雪舟などの特徴であり、障壁画は狩野派、役者の誇張表現は東洲斎写楽などの特徴です。
問12	答え 1 間宮林蔵	18世紀末から19世紀初めにかけて、ロシアの南下政策などに対抗するため、幕府は蝦夷地を直轄地にして直接支配に乗り出しました。間宮林蔵は幕府の命を受けて樺太とその対岸を調査し、樺太が島であることを突き止めました。この成果は、樺太と大陸間の海峡が「間宮海峡」と呼ばれる由来にもなっています。伊能忠敬は日本全国の測量を行った人物ですが、樺太の調査を完遂したのは間宮林蔵です。